

令和6年度第4回茨木市環境審議会委員意見整理表

資料 3

No.	頁 (第4回案)	委員氏名	委員の意見	事務局の回答	頁 (第5回案)
1	2～4	山田委員	第1章には、11ページに記載の生活環境、自然環境、低炭素、資源の循環という今まで第2次計画で取り組んできた項目をさらに一層推進する第3次計画を立てるといった文章がほしい。	P3「茨木市における環境基本計画策定・改定の趣旨」において、本市環境基本条例において当初から宣言していることが今ウェルビーイングにつながっていること、また第3次計画の策定の趣旨について記載させていただきます。	3
2	2	金谷委員	2ページにウェルビーイングという言葉が出てくるが、この後に※印等でp5参照と書いてあるとよい。	「P5コラム参照」を追記しました。	2
3	5,6	田中委員	コラムの入れ方について。導入部分で理解してもらおうという意味でも循環経済や生物多様性といった大事なキーワードの説明はもう少し前のコラム②の後に続けて、先に説明を読んでもらう方がよい。後で出てきた用語については、コラム①を参照、何ページ参照という書き方にするとよい。	コラムは文中で関連のある箇所に配置し、P2の初出のところに「P〇コラム参照」と追記しました。	2
4	5	前迫委員	5ページではウェルビーイングがコラムに入っているため、言葉の解説になっており、ウェルビーイングに向けてやっていくということが薄れていると思う。コラムとしての扱いでよいのか。	読みやすさに配慮し、コラムに掲載のままとしました。	5
5	6	狩野委員	コラム②の図にある縦軸についての説明、MDG、SDG、愛知目標、生物多様性枠組、右の青の汚染や侵略的外来種などといったわかりにくい用語については説明を載せた方がよい。	必要と考える用語について、同ページと用語解説に解説を追加しました。	6 103
6	7	金谷委員	7ページの図の本計画の位置づけで、茨木市環境基本計画が真ん中にある太い黒枠になっている。ここに色をつけたらわかりやすいと思う。	色を付けました。	7
7	12～23	泉本委員	第2次計画の達成状況の環境指標のまとめが施策ごとにあるが、それと88～90ページの第3次計画の施策別指標及び目標の表と合わせて、過去と現在とこれから目指す未来の部分をまとめた方が見やすいと思う。それを第3次計画の各施策の最後につけると、どういう風を目指していけばいいのかが一目でわかるのではないかな。最後にこの目標を達成できた場合に予想される効果など、大まかな数字や表現でもよいので書かれていると、これを行っていく意義がわかりやすいと思う。	第2次の達成状況と、第3次の指標及び目標が混同されないよう、構成としては現状のままとさせていただきます。	12～23
8	12～23	小林委員	参照ページが前の方に書いてあると探しやすく、今の構成も大幅に変えなくてもよいと思う。	No.7に同じ	12～23
9	45	前迫委員	45ページにテキストマイニングの分析結果が出ている。どういう方法で分析したかがわかるように、テキストマイニングという言葉を入れた方がよい。	付け加えました。	45
10	48	田中委員	48ページの環境像と基本施策のイメージ図について、ウェルビーイングという言葉が小さくなっているので、少し大きくしてほしい。施策を1、2、3、4と矢印で記載しているが、1、2、3、4という順番でやらなければいけないのかという単純な勘違いをしてしまう可能性もある点と矢印が反時計回りになっているのが気になる。	ウェルビーイングを少し大きくし、矢印表記を修正しました。	48
11	60,68,73,80	金谷委員	60ページ、68ページ、73ページにイラストでのイメージ図がある。何を言いたいのか分からないところもある。イメージ図の下にタイトルをつけて、右のページの取組との対応で、これとこれをイメージで示しているという記載があった方がよいと思う。 また、市民が取り組みやすいものをイメージ図にする等全体で統一されていると、わかりやすいと思う。例えば、ゴミ分別アプリを使って調べているイメージや、食品ロスをなくそうとしているイメージ等がよい。後に出てくる施策との関連付けをした方がよい。	説明文としてイラストの下に「〇〇(基本施策)の取り組みのイメージ図」と記載し、イラストも一部修正しました。	60,68,72 ,78

No.	頁 (第4回案)	委員氏名	委員の意見	事務局の回答	頁 (第5回案)
12	60,68,73,80	山田委員	各基本施策のテーマの下のイメージ図については、あったほうがよい。未来の姿を表してるとするならば、もう少しアピールするようなイメージ図にした方がよい。イメージ図を載せるのであれば市がどのように考えているのかが一目でわかるところなので、もうひと工夫していただきたい。できたら理想の姿のイメージ図のほうがよい。	No11に同じ。	60,68,72,78
13	61	狩野委員	61ページに環境指標が5つあるが、“電力使用料”と“温室効果ガス年間排出量”は同じカテゴリーで、“環境フェアの参加人数”は環境行動だったり、環境教育だったりすると思う。“環境フェアの参加人数”を一番下にし、頭の整理のつきやすい並べ方にするとうい。	記載順を整理しました。	61
14	62	久米委員	62ページでデコ活が何なのか分かりにくい。デコ活が大事ということをここでは書いてほしい。	デコ活の説明とデコ活アクションについて記載しました。	62
15	62	久米委員	太陽光発電も技術革新が推進し、用途も広がり低価格になるので、導入推進しやすくなる等の記載がほしい。またEVなどの、今後5年間くらいの技術開発の状況を書いてほしい。	今後の技術革新が期待される壁面型太陽光をP.60のイラストで示しました。また、個別の具体的な技術革新の情報等については、進捗状況の年次報告書である「いばらきの環境」でトピックスとして取り上げることとします。	60
16	63	久米委員	63ページにZEB、ZEHという言葉が出ているが、後ろの用語集の解説がわからないような解説になっている。市民にもわかりやすく、そのような行動を推進するような解説を付けてほしい。	P64に解説を掲載しました。	64
17	63	前迫委員	62ページにデコ活の絵があるが、用語集まで辿らないといけない。全てにやらなくてもよいが、新しい用語が出てきたときに、その場ですぐわかるよう記載をしてもよいのではないかな。	デコ活については記載しました。そのほかの用語についても、用語解説かその場に記載かを整理しました。	62
18	65	田中委員	65ページの気象災害という言葉について。気象災害は非常に幅広く定義があってないようなものなので、気象災害という言葉を使ってもいいと思うが、できたら用語集に茨木市に関わる自然災害について書き加えた方がよいと思う。	P.65に想定される気象災害について追記しました。また、用語解説にも追記しました。	65
19	65	田中委員	気候変動の、防止・軽減という言葉について。今は軽減よりは緩和という言葉積極的に使っているのて、“緩和あるいは軽減”という言葉も少し入れた方がよいと思う。	気候変動適応法 第二条(定義)の「気候変動適応」の内容に準じた表現として、記載しておりますので、現行のままとさせていただきます。	65
20	65	前迫委員	65ページに気候変動について。みどりのカーテンで脱炭素をめざすというのはもう弱い。自然環境でもって脱炭素を実現し、適応策に沿っていくというところと関係しているのて、ここは検討いただきたい。茨木市が持っている自然環境というものをしっかり保全していき、脱炭素や気候変動に結びつけていくという、そういう記載がほしい。	数字が確実に確認できる指標として、みどりのカーテンを取り上げています。自然環境を脱炭素や気候変動に結びつけていくという点は、現時点では関係部署と会議の場を設け、自然環境について議論したところであり、具体的に指標につながるころまでは至らず、記載としては修正しませんが、今後事業を行っていく際に当該施策として適切な事案を検討していきたいと考えています。	65
21	65	狩野委員	みどりのカーテンの取組件数ではCO2削減には少ないかもしれないが、環境教育という点ではいいと思う。身近にできる生活の環境行動につながるのて、みどりのカーテンは指標に残していただきたい。	指標とします。	65
22	65ほか	田中委員	猛暑日の市民のところの語尾が“します”となっている。市民自身がやることなのか、市が市民に対して要望することなのかを読んで少し曖昧。全体を通して、言葉遣いを工夫されたらどうか。	取組の項目については、各主体が行うことを記載しておりますので、猛暑日の市民の取組については、現状のままとさせていただきます。全体の言葉遣いについては、再度確認・修正しました。	65ほか

No.	頁 (第4回案)	委員氏名	委員の意見	事務局の回答	頁 (第5回案)
23	70,71	前迫委員	自然共生サイトを積極的に支援していく、サポートするというような文章がなかったので、生物多様性の保全の中で書き込むことを検討いただきたい。	P27(4) 2030年にむけた目標: ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現で記載しました。	27
24	70	前迫委員	70ページに外来生物について。特定外来生物という書き込みがない。特定外来生物についてはしっかり対策するということで、この言葉の使い方を検討していただきたい。	市の取組として、「特定外来生物対策を実施します。」に修正しました。	70
25	72	前迫委員	72ページの④にSDGsの位置付けが書かれているが、下は余白になっておりスペーシングが気になる。他のページも同様にスペーシングを考えたほうがよい。	SDGsの位置も含め、スペースについては見やすく調整しました。	71ほか
26	73	金谷委員	73ページに、ゴミ処理施設のところに大きな回収箱があり市民が持ってきて置くというふうなイメージ図があるが、茨木市に現実にあるのか。	実際にこのような資源物の置き場が屋外にあります。	72
27	76	金谷委員	76ページの資源循環の下表、家庭系ゴミの再資源化の市民の5つ目のポップのゴミ分別アプリに※印があるが、これは取り忘れたと思う。	※は削除しました。	75
28	76	久米委員	78ページのごみの適正処理の推進の現状と課題について、効率運転に努め、さらに効率を上げるために摂津のゴミも受け入れて稼働率を上げているといったような現状のいいところをPRしたほうがよい。ここでは、さらに経費の面でも一層効率を上げるように努めるといった文言にするとともに、電力の回収でいうと近隣の他のゴミ処理と比べると非常に高いということもPRしてほしい。	現状と課題のご指摘の箇所について、修正しました。	76
29	92	小林委員	巻末の92ページでは計画の管理はこうしていきますと事務的なことが書かれて終わっている。ここに、行政の皆さんが考えている今後に向けたメッセージや思いがあれば、行政の皆さんも市民と一緒に考えていこうという姿勢があるんだなということがより伝わるような資料になると思う。	計画を周知する際、ご意見を参考にしてまいります。	88
30	105～123	久米委員	112ページのCOPの解説が誤っている。また、例えばクーリングシェルターの解説に、市民が熱中症防止するために茨木市ではクーリングシェルターが、どのような温度で、どのような時に入ることができて、何ヶ所ある等を書いてほしい。グリーンインフラについての解説も具体的にわからない。もっと簡単な文言にして中学生や小学生でもわかるように、今一度用語集全体を見直してほしい。	用語解説について再度確認・修正しました。クーリングシェルターについては、施設や開放時間など随時見直しが発生する可能性があるため、具体的な内容はHPで記載することとしています。	106 108
31	-	山田委員	概要版は、こどもから高齢者を対象として、具体的な方法をわかりやすく、専門用語をできるだけ使わずに内容を簡単にして作成してほしい。 温暖化防止の概要版が非常にわかりやすかったのをそれをたたき台にもらい、具体的な行動として、10項目から30項目程度を挙げ、市民にとってそれぞれ利点がある点を記載し、今やるべきことや市民に促すことを強調した概要版を作っていただきたい。	できるだけ皆さんに内容を分かっていただき、同じ方向を向いて取り組んでいけるようなものをめざして作成します。	-
32	-	山田委員	冊子だけでなく、SNSの時代なので情報発信としてYouTubeを利用するとよいと思う。検討いただきたい。	ご意見を参考にさせていただきます。	-
33	-	小林委員	この冊子自体はPDFなどでどこかで見られるようにするのか。	ホームページにPDFで公開させていただきます。	-
34	-	小林委員	用語にPDFでリンクを貼れば非常に見やすいと思う。	用語がたくさんあり、リンクを貼ることによって見やすさはどうか等も含めて検討させていただきます。	-

No.	頁 (第4回案)	委員氏名	委員の意見	事務局の回答	頁 (第5回案)
35	-	田中委員	外部のホームページ等のURLをここに貼ってもらうとさらに深く学ぶことになるのでよいと思う。URLを載せて押せばサイトに飛べるようにしておくといった配慮をしてほしい。	計画期間が10年であり、URLが変わってしまう恐れもあり、URLの記載はしないこととしました。	-
36	全体	金谷委員	用語集がかなり充実しているので、本文の中でこの言葉は用語集に説明があるということがわかるような工夫があったらもっとよいと思う。やり方は2通りあり、一つは出てきた言葉のところに米印を付けること、もう一つは区切りページの末尾にこの言葉とこの言葉は用語集にあると記載すること、といった工夫をされた方がよりよいのではないかな。	文中の用語に点線で表示しました。	-

※令和6年度第3回茨木市環境審議会委員意見整理表より(修正)

	71(第3回素案頁)	久米委員	ごみ適正処理の推進という中で、市民一人当たりの処分経費8,689円を6,500円にするところがあるが、具体性が本当にあるのか。前の説明のところ、近年光熱費が上がってごみ処理コストが上がっており、平成26年6,700円が8,689円に上がっており、2,000円上がっている。さらに今はウクライナ戦争などでエネルギーコストがさらに上がっている中で、本当に2,000円も下がるのかが見えない。やはり光熱水費はそんなに下がらないのではないかな。努力目標で前の値段ぐらいに戻そうと書かれてるような気がするが、光熱費の分析も含んでいけばよいが、含まないなら現実を踏まえて書かないといけない。現実を踏まえて本当にやるのであれば、稼働率100%に近い方がエネルギー効率は上がる。今のごみ焼却炉の稼働率を常に100%に近い状態で動かしてるのか。80%や70%で余裕を見てみると、放熱ロスでたくさん熱が逃げるので、エネルギー効率が下がって処理コストが上がる。茨木市の場合は焼却方式でなくてコークスベッド方式である。省エネを本当にしたいのであれば、コークスというのはごみを支える構造材として使うケースもあって、逆に構造材であれば別にコークスでなくてもよく、一部セラミックスを入れたらいいのではないかな。コークスの代わりにセラミックスを入れて、構造材代わりにしてコークスを減らす取組なども行われている。具体的にそのような施策の上でエネルギーが減りコストダウンするのならいいが、そういうことも何にもわからずにいきなりこれだけ下げますというのでは少し無謀だと思う。具体的な施策に基づいてやっているのであればそのことを書いてほしいし、基づかないのであれば、きちんとエネルギーコストを反映して努力目標を策定しないといけない。達成できなかったと何年か後に言うよりは今から考えて目標をきちんと立てた方がいいと思う。	炉の稼働率では、令和5年度の実績において、1日あたりの処理能力(450t)に対し、336t(74.7%)処理しています。また、3炉同時の連続運転に努め、余剰電力を多く生み出すといった、熱エネルギーの有効活用を図っています。 また、目標達成に向けた今後の取組みとしては、安定的で円滑な広域処理を進め、処分経費の削減を図るとともに、炉の更新を見据え、エネルギーの更なる有効活用が図られる設備の導入に向け検討するなど、その適正処理の推進に努めます。	
--	------------	------	--	---	--